

# 今こそ地域一体で協力

相模原・町田・伊勢原エリアの取り組み

東日本巨大地震後、福島原子力発電所の問題などもあり、被災地をはじめ、関東圏内では電力が足りない状況となっている。アサミホテルグループでは、こうした状況を踏まえ、「相模原・町田・伊勢原」エリアの各ホテルに呼びかけ、互いに行える節電と被災者への救済を始めた。

自分たちにはできることから始める

(賛同ホテル7社3月15日現在)  
 ●相模原オリエンタルホテル  
 ●ラクシオイン  
 ●伊勢原パークホテル松屋  
 ●相模原第一ホテルアネックス  
 ●伊勢原グリーンパレスホテル  
 ●JNファミリー  
 ●ホテルザ・エルシィ町田



マグニチュード9.0。1900年以降、過去4番目の世界的大地震が東日本を襲った。その後、立て続けに地震が発生。東北地方をはじめ、各地に大きな傷跡を残した。また地震による被害は、福島原子力発電所にも及んだ。この事態により、電力不足による大規模停電の恐れがあると、政府、東京電力が発表した。

アサミホテルグループでは、こうした状況を踏まえ、自分たちに行える節電対策から始めることにした。また、地域一体となって取り組む必要性があると考えた。同グループの一つ、相模原第一ホテルアネックスの志村マネジャーによると、「3月14日の午前9時

ごろ、近隣エリアの約25店舗に節電の呼びかけをしました。すでに節電を行なっているホテルもありますが、地域一体となって取り組むことで、被災地の人たちへのメッセージとなればと考えています」と話す。

節電対策として主な実施内容は「店舗誘導および、案内看板の終日消灯」、「客室廊下天井、誘導灯の一部終日消灯」、「ホテル駐車場内、案内灯の一部終日消灯」、「バックヤード(事務所内)不要灯終日消灯」などという。

## 被災者の受け入れ

震災後、被災者からの問い合わせのお電話が多数寄せられています。東北地方の企業の人で、少しでも安全なエリアを、と考えてのことのようです。現在、

15人が宿泊されています。計画停電のため、朝食レストランは行なっていないですが、可能な限り避難者を受け入れていきます(志村氏)。

弊社調べでは、全国各地のホテルで被災者の受け入れを行なっている。東北地方から近い北海道のホテルでは約

150人を、遠く離れた沖縄のホテルでも15人を受け入れているようだ。話を聞くと、「被災者は震源地から少しでも遠くに、家族、親戚がいるエリアに避難している」とのこと。各自治体でも受け入れを始めており、東京都も17日付で公共施設で約1600人が受け入れ可能と発表した。

なお相模原市でも避難者の受け入れだけでなく、相模原オリエンタルホテルの永田浩司氏を中心に「相模原ホテル会」を結成し、相模原の姉妹都市である岩手県大船渡市へ、「水」、「粉ミルク」など31品目の緊急物資の搬送を始めた。ほかにも、伊勢原グリーンパレスの中村卓弘マネジャーが現場を指揮し、避難者への対応を行っている。

## 避難者の様子・声

- 計画停電を伝えると、「我慢できます。電気があるだけでも」
- 「マックでハンバーガーを買って食べることができた」と喜ぶ子供
- 大学受験で相模原に来ていた受験生。地震後、仙台の実家への帰宅手段を失うも、家族の無事が確認でき一安心
- 岩手から来ていた観光客。現在は新潟経由で岩手の実家に帰宅できたとホテルに連絡が届いた